

1.29  
~  
2.2

## 医学看護学合同教育科目「奈良学」を開講しました

奈良学は、奈良県の文化、歴史、自然などを通じて「奈良」についての理解を深めるとともに、県の医療状況について学び、奈良の医療に対する意識を涵養することを目的に開講しています。また、本科目は、医師・看護師の多職種連携の基盤形成を図ることも目的に医学科1年生と看護学科1年生の合同講義として開講しています。

令和5年度は、1月29日(月)～2月2日(金)の5日間、集中講義として実施しました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、フィールドワークの時間短縮や、病院見学実習を一部遠隔で実施する等、実施形態を変更していましたが、今年度は、コロナ禍前と同様の実施形態で実施することができました。

### ■ 奈良学の開始にあたって

細井学長から、本学の過去・現在・未来と題して、講義をしていただきました。奈良学は、本学の学生が自己の将来を有意義なものにするために必要な材料を提供することと、本学の姿を知って、本学の学生である誇りを持つようになることを目的として開講していると始めに話されました。ご自身の業績に触れられながら、本学の独創的な取組のひとつであるMBTについて講義し、新キャンパスの構想も説明されました。最後に、学長がお持ちの信念を話され、学生へ挑戦する気持ちを常に持ち続けるよう激励の言葉を贈られました。

### ■ 奈良の文化・歴史・自然学習

奈良の文化・歴史・自然について、座学で学んだ後、医学科と看護学科を混ぜた約8名ずつのグループに分かれ学生自身でフィールドワークの計画を立て、県内7か所で自然散策を行いました。

#### 《今井町の歴史(座学)》

今井町並み保存会の中西会長をお招きし、本学の近隣に位置する今井町の歴史について講義をしていただきました。

講義では、今井町の起こりから重要伝統的建造物群保存地区の指定を受け、現在に至るまでの歴史を説明されました。今井町の歴史について深く考えたことがなかったが、講義を受けて今井町パンフレット今井町がより身近に感じられたという意見が多数ありました。



#### 《深イ奈良の歴史&文化(座学)》

奈良まほろばソムリエの会の鉄田専務理事をお招きし、奈良県の歴史と文化について講義をしていただきました。

講義では、奈良県の地域性から奈良盆地北部、奈良盆地南部、大和高原と吉野路の4つのエリアに分けることができることの説明があり、各エリアの特色や観光地等の講義をしていただきました。出身地を問わず、奈良について幅広く、楽しく知ることができたようでした。

#### 《奈良県の地理・気候・自然災害(座学)》

気象庁 奈良地方気象台の瀧澤様をお招きし、奈良県の地理や気候、自然災害について講義をしていただきました。

奈良県の地理に詳しくない学生にもわかりやすく、市町村の位置関係や奈良県の自然災害、災害が起きた時の対処法をクイズを交えて講義されました。学生の感想には、奈良県の大規模な病院の一部が、災害の危険性がある地域に存在することを初めて知ったとの声があり、当該病院が被害を受けた際の対応について考えるきっかけになったようです。

#### 《フィールドワーク》

奈良市東部、奈良市西部、大和郡山市、斑鳩町、桜井市、明日香

村及び吉野町の7コースに分かれ、グループごとに作成した計画書に沿ってフィールドワークを行いました。学生の感想では、直接、奈良の寺社を訪れることで、奈良の魅力を再発見した、学科を問わず、今まで話をしたことがなかった学生と仲良くなれた等が多数ありました。

また、フィールドワーク終了後、見学地ごとに写真、解説、見どころ及び豆知識などを、グループ内で報告書にまとめていました。



東大寺 (J班)



大神社 (M班)

### ■ 奈良の医療についての学習

3日間を通して、奈良の医療について学びました。

初日は、グループごとに見学先の病院について事前学習した後、県内12病院で病院見学を行いました。2日目は、奈良県の医療について座学で学んだ後、奈良県の医療における課題及び解決策をグループディスカッションし、発表資料を作成しました。

最終日は、前日に作成した資料を用いて、奈良県の医療に関する発表会を6つの会場に分かれて行い、各会場から選ばれた最も優秀なグループ1組がシンポジウムで発表しました。

#### 《病院見学実習》

奈良県内の12病院に分かれ、病院見学を実施しました。地域医療の現状等を踏まえて、病院の概要、立場などをご紹介いただきました。また、病院ごとに、7テーマ(地域医療、在宅医療、へき地医療など)が割り振られ、グループワーク及び発表会に向けて、見学先の医師や看護師、メディカルスタッフのお話を熱心に聞き、活発な質疑応答が行われました。

1年生の授業内では普段見ることのできない、外来、検査室手術室及びドクターヘリなどを見学させていただき、初めて見る病院の設備、機器に直接触れる体験実習を行い、興奮している学生も多数いました。学生は、実際に見学させていただくことで、将来、医療人となることを実感し、医療について学ぶモチベーションが上がったようでした。



南奈良総合医療センター (5班)



済生会奈良病院 (18班)

## 《奈良県の医療（座学）》

奈良県医療政策局の筒井局長から奈良県の医療について講義をしていただきました。

国の動向を踏まえつつ、県内の地域性を考慮した医療施策を展開していることを、現状や現在の取組状況、今後の方針を交えて説明されました。学生は、これまで学習した講義内容やフィールドワーク、病院見学がこの講義と結びつき、奈良県の医療について学びを深めることができたようでした。

## 《奈良県の医療と病院に関する発表会の資料作成》

病院見学実習ごとに設定されたテーマに沿って、奈良県の医療における課題の明確化、優先順位の決定と解決策の検討を行いました。



KJ法による課題の明確化

課題の明確化はKJ法を、設定した課題の解決順の決定は2次元展開法を用いました。縦軸を重要性、横軸を緊急性としたグラフに、KJ法で明らになった課題点を配置し、両方の指標が高いものから最優先課題を決定しました。

決定した課題について検討し、病院見学実習で学んだことや医師・看護師が地域医療に求められることや実施すべきこと等をまとめ、発表資料を作成しました。

終了時間を過ぎて、より良い発表をするためにブラッシュアップを重ねているグループもあり、熱心に取り組む様子が印象的でした。

## 《奈良県の医療と病院に関する発表会》

22班を6会場に分け、発表会を行いました。

会場ごとに教養教育部門と看護学科の教員各1名がファシリテーターとして立ち会い、発表の仕方や資料の見せ方等についてコメントをしました。

すべての班の発表後、午後のシンポジウムで発表する代表班を学生自身の話し合いにより選出しました。代表班選出後、シンポジウムで発表する代表班のために、会場の学生が意見を出し合い、発表内容や方法のブラッシュアップを行いました。

## 《奈良県の医療と病院に関するシンポジウム》

病院見学実習先から以下の方々の5名の方をコメンテーターとしてお招きし、大講堂でシンポジウムを開催しました。司会は、地域医療学講座の大前助教、ファシリテーターは、嶋医学部長と教育開発センターの若月教育教授が担当されました。

午前の発表会で代表となった6班が発表を行い、各班の発表後にはコメンテーターの方々から実際の医療状況や各病院の現状、取組み内容も踏まえコメントをいただきました。すべての班の発表後に、全22班の投票により、1位～3位の班を決定、また、今年度からコメンテーター特別賞を追加し、嶋医学部長から表彰

を行いました。

シンポジウムの最後には、コメンテーターの方々から講評を賜りました。コメンテーターの方からは、病院見学実習を含めた様々な授業が発表に活かされていることに感心を受けたことや、今回の経験を活かし時代に応じた多様なスキルを持つ医師・看護師を目指してほしい、是非来年も病院見学に来てほしいことなどのコメントがありました。実際に見学した病院の方からお話を聞くことで、奈良の医療について考える学生にとってかけがえのない貴重な体験となりました。

## 【コメンテーター】

奈良県西和医療センター

土肥 直文 病院長 竹之内 美栄 看護部長

大和高田市立病院

岡本 千賀子 看護局長 里内 正樹 認定看護師(感染・係長)

南奈良総合医療センター 森 春枝 看護部長

## ■ 奈良学を受講した学生の感想

「奈良学」では、実際に病院を見学して、各病院のテーマに沿った説明を受けました。事前学習では、教養教育を受けたのみで医学的知識が殆どない我々が学べる事などあるのだろうか?と懐疑的でした。しかし、実際は多くの学びがあり、「行動科学」や「倫理学」でも学んだ、医療者である以前に人間として当然持つべきであるような、患者に対してのあり方をより深くまで学ぶ事ができました。今後、医学を学んでいっても、医学知識がない立場から「患者という一人の人間に対してどう在りたいか」を考えたこの体験を忘れずにいたいです。

1位となった22班を代表して医学科1年生 井上さん

奈良学を通して、奈良や奈良の医療に関して今まで以上に知ることができました。自然学習では、実際に現地で奈良の自然や歴史を感じ、また、学外への病院見学では、医学科1年生としては初めて院内を見学させていただきました。看護学科の人たちともグループワークを行い、発表することで病院見学での学びを深めることができたと感じました。この学びを忘れず、2年生以降での講義や実習で活かすことができるように努めたいと思います。

医学科総代 津本さん

奈良学を通して、奈良の文化や歴史、自然だけでなく、実際に病院へ足を運んだことで奈良の医療に関しても学ぶことができました。私自身、県外から通学しているので、奈良について詳しく知りませんでした。しかし、多くの視点から奈良を知ることができ、奈良への関心がより深まりました。奈良学が私にとって、奈良の医療に貢献したいと思うきっかけとなりました。奈良学での学びや経験を活かして、これからの学業に励んでいきたいと思っています。

看護学科総代 平野さん



1位及びコメンテーター特別賞の班



2位の班



3位の班



講評をされる嶋医学部長